



No. 13  
平成15年  
2003  
5

江戸東京博物館友の会会報



## 第3回 平成15年度 友の会定期総会に参加しよう 5月28日(水) 午後1時30分から開催 竹内館長記念講演も予定

江戸東京博物館友の会は、発足して3年目を迎えました。

この間、会員数は850名を超えるに至り、活動内容もますます充実してきました。

各界でご活躍の講師を迎えてのセミナー、古文書講座、江戸城を巡った見学会、創作体験講座などに加え、館主催の企画展への特別内覧会も6回にわたり開催され、それぞれ多くの会員の参加で盛り上がりました。

第3年度も会員が主体になって企画・運営されるさまざまな事業活動が予定されていて、皆さんより積極的な参加が待たれています。また、こうした企画や活動について、皆さんの率直なご意見やご要望をできるだけ生かしていきたいと考えています。

総会の日程や議案は以下の通りです。総会は1年間の活動を振り返ると同時に、今後の活動について会員の

総意をまとめる場です。別送(5月8日ころ発送予定)の議案書をお読みいただき、ぜひご出席ください。

.....

### ■平成15年度 友の会総会

開催日時:5月28日(水)午後1時半  
会場:江戸東京博物館1階ホール

### ■主な議案(予定)

- ・平成14年度 事業報告
- ・平成14年度 会計報告
- ・平成14年度 監査報告
- ・平成15年度 事業計画案  
事業部会・広報部会・総務部会
- ・平成15年度 事業予算案
- ・役員選出(改選)案

### ■竹内館長記念講演と懇親会

総会に引き続いて、午後3時から竹内誠館長の記念講演が予定されています。

また、午後5時から館内のレストランで懇親会が開催されます。



### ハ・イ・ラ・イ・ト

- 2003年度 友の会定期総会は5月28日です。ご参集をお願いします。
- 会員資格期限が到来間近で、更新の方は継続手続きをお願いします。
- 特集「開館10周年記念」関連記事  
・竹内館長 ごあいさつ  
・記念事業、盛大に開催されました。  
・マーク、キャラクター決まりました。
- セミナーなどの活動報告  
・2/27 第2回江戸料理を楽しむ会  
・3/5 「江戸東京〈もの〉がたり 展」  
・3/21 創作講座 江戸手描友禅  
・3/27 「明治の女子留学生たちが、アメリカから学んだこと」
- えど友プラザ 会員投稿のページ  
●〈江戸博クリップ〉学芸員エッセー
- [シリーズ]ミュージアムショップ  
名店めぐり(5)「渡邊木版美術画舗」
- 会員優待のお知らせ——  
・企画展「武蔵 武人画家と剣豪の世界展」 4/11~5/25
- この会報は、皆さんと一緒に創るコミュニケーション情報誌です。ご意見、ご要望、投稿などをお気軽に寄せください。

### 会員継続更新のお知らせ

#### ●手続きはお早めに!

友の会は会員の皆さんで支えられています。会員資格は1年間です。まもなく有効期限を迎える方は更新の手続きをお願いします。

該当の皆さんには「継続手続き類」が郵送されますので、お早めに手続きをお願いいたします。

\* 更新しませんと、友の会活動への参加や会員特典を受けられなくなります。ご注意ください。

・特集・  
**開館10周年記念**

江戸東京博物館は平成5年(1993)3月28日、江戸・東京の歴史、文化を伝え、現代から将来を展望する都市史の博物館として開館して本年10周年を迎え、多彩な記念行事が開催されました。

館長ごあいさつ

**開館10周年にあたり  
ご挨拶申し上げます**

江戸東京博物館館長  
竹内 誠

平成15年3月28日、江戸東京博物館は開館10周年を迎えました。この10年という間、江戸東京の歴史と文化を楽しく学べる博物館を目指し、さまざまな試みを続けて参りました。今まで多くの皆様にご来館いただき、無事に10周年を迎えたのも、ひとえに当館を支えてくださった皆様のおかげと感謝申し上げます。

また、本年は、江戸に幕府が開かれ1603年から、ちょうど400年目にあたり、当館にとっても大きな節目の年となります。「生生発展する博物館」とい

う、当館のモットーに従い、これからも常設展示室の改善をはじめ、お客様により楽しんでいただけるよう、さまざまな工夫を凝らしていきたいと思っております。

友の会の皆様には、これまで以上に江戸東京博物館をご支援いただき、江戸・東京の歴史と文化を守り、後世に伝えるべく、ともに力を携えて歩んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、3年目を迎えた「友の会」のますますのご発展を祈念いたします。

**開館10周年記念事業  
盛大に開催される**

3月28日、開館記念日

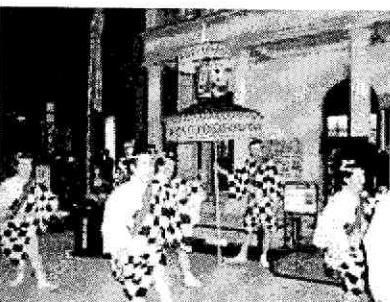
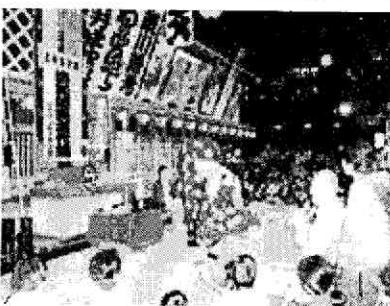
また、体験コーナーでは「えどはく落語会」、1階ホールでは「きものショー」、さらにホール前では大道芸も披露され、いずれも満員の大盛況。さらに展示ボランティアガイドが勢ぞろいしての「スペシャル展示ガイド」や「クイズ&スタンプラリー」も開催されて、10周年を祝う全館が終日多くの観覧者で賑わいました。

3月中は「おかげさまで10周年」のキャッチフレーズのもと、学芸員による「スペシャルミュージアムトーク」や、5階体験コーナーでの「きもの体験」「昔遊び」「浮世絵クイズ」、これまでに開催された企画展のポスター展、マーク&キャラクターの入選作品展、フリーマーケットなども開かれました。

江戸東京の歴史と文化を伝える博物館として、今後のさらなる発展を祈るところです。

【取材】広報部会・大松駿一

【写真】華やかな記念イベントが来館者をひきつける（上）きものショー（中）中村座前での太神樂（下）朝野新聞前でのかっぽれ





江戸東京博物館友の会 特別内覧会(2003/3/5)

【企画展】江戸開府400年・開館10周年記念

## 江戸東京[もの]がたり ～江戸東京博物館特別収蔵品展～

特別内覧会は3月5日(水)午後6時から関係者と合同で開かれました。開会にあたり竹内館長から次のようにあいさつがありました。

「先の『八百八町展』には延べ18万人、1日平均4千人と、入場待ちの状態も出て盛況裡に終了しました。この企画展は第2弾で、目的は3つあります。

まず、開館準備期間から20年間に17万点の収蔵品があります。今回は開館10周年にあたり、その中から、選りすぐりの物を展示します。次に、江戸から東京への暮らしの変化を物を通して見ていただくとともに、江戸・東京の心も伝えるものです。そして、各種の関連事業を開催していきます。講演会や国際シンポジウム、28日の入館無料デーなど、3月は『10周年記念月間』として記念事業を開催します」。

約1000点の展示品は、もの(物)そのものの機能やその物が発信するコンテンツから7つのテーマに分類する縦割りの考え方で構成されています。「物」という大きなカテゴリーが主題なので、見る側からは横断的な、あるいは多面的な見方もできます。これらが今回の企画展の特徴といえます。

「物に使われる素材」から見ていきまと、江戸時代は木材、紙、布などを中心に物が作られていたのが、明治以降になると、西洋技術の導入や新素材の開発が進みました。戦後はプラスチックをはじめとした化学物質の素材が多用されて、今日に至っています。

また、「歴史の連續性と非連續性」の観点から見つめることもできます。物の素材や有用性に大きな変化がなく、今も作られ、使われているものもあります。

例えば、うちわや扇子などが身近にあります。他方では、ある時期から出現した物です。ラジオ、テレビ、パソコン、携帯電話などは技術革新の進展とともに日常の暮らしに入ってきました。

そして、展示品を観覧すると、「既知の物と未知の物」にも分けられます。戦前から戦後の物なら、あの時はこうだった、と実体験から物の大切さや大事さが思い起こされます。

さらに「再生可能な物と不可能な物」です。資源リサイクルから見ると、役割を終えた物が自然系に回帰したり、あるいは再加工・再利用される物が、江戸時代には多くありました。時代が進んで、消滅や廃棄できない物、自然環境を悪くする物など処理に困難な物が製造されるようになりました。

高度経済成長期の消費拡大で大量生産された、暮らしに便利で、快適な物は反面、今日抱えているごみ問題や環境破壊につながってきています。

物は時代とともに生き、時代は物を作り続けています。これから循環型社会では、どんな物が歴史の舞台に登場してくるのでしょうか。

【取材】広報部会・巻渕 彰

## 開館10周年記念 マーク、キャラクター 決まる

開館10周年事業の一環として、江戸東京博物館が公募した「マーク＆キャラクター」が決定。館の新たな顔として3月4日に発表されました。

応募作品は1177点。審査は以下の5名の選考委員で行われました。

栗津潔(グラフィック・デザイナー、印刷博物館館長)、北原亜以子(作家)、森まゆみ(作家)、三宅広人(東京都生活文化局長)、竹内誠(江戸東京博物館館長)の各氏。

マーク部門の優秀作品には小池恒晴(こいけつねはる=墨田区)さん、キャラクター部門の優秀作品には長砂昌宏(ながすなまさひろ=浦安市)さんの作品が選ばれました。

マークは、力強い筆のタッチで江戸東京博物館の建物をイメージしたものです。キャラクターは、常設展入口にある日本橋の欄干擬宝珠(らんかんぎぼし)を頂いた親柱をモチーフにしたものです。

優秀作品は今後、江戸東京博物館の各種事業や企画に使われます。

【取材】広報部会・大松駿一

【図】新しく決まった開館10周年の(上)  
記念マーク (下)記念キャラクター



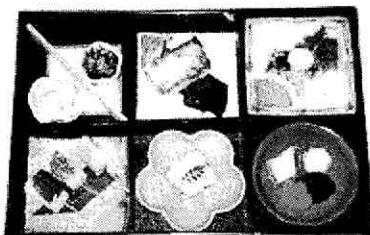
江戸東京博物館  
EDO-TOKYO MUSEUM



## 第2回 江戸料理を楽しむ会 ～豆腐料理に舌鼓～

講師 松下 幸子さん(千葉大学名誉教授)  
井出 源一郎さん(レストラン十八番料理長)

2月27日、友の会と江戸博内の「レストラン・モア」共催によって江戸料理を楽しむ会が開かれました。昨年10月の会につづく第2回の開催で、千葉大学名誉教授で料理史研究家の松下



【写真】江戸料理弁当（上左から）白和え、太刀魚の雪花菜焼き、刺身（さより、とり貝）（下左から）豆腐田楽、更紗玉子、煮物（高野豆腐、里芋、椎茸など）

幸子講師の講演と、国立劇場のレストラン十八番・井出源一郎料理長が腕をふるった江戸料理に、「学んで食べる楽しさ」を満喫しました。

今回のテーマは豆腐と卵の料理。江戸時代の一般庶民はかなり粗食で、蛋白質は多くを大豆から取っていました。その大豆の加工品で、いまも日本人に愛されている食物が豆腐です。また、当時はとても高価でしたが、玉子も好まれた食品のひとつでした。

豆腐の料理法は、天明の頃（1780年代）に『豆腐百珍』『豆腐百珍続編』『豆腐百珍余録』が出版されています。玉子についても同時代に出版さ

れた『万法料理秘密箱』に「卵百珍」が書かれています。『近世風俗誌（守貞漫稿）』の豆腐の項には、京坂と江戸の豆腐の違いが説明されていますが、それによりますと、江戸の豆腐は現在のものより固くて、田楽が流行したのは串に刺して焼くのが容易だったからといわれます。一方、京坂のものは上質で「柔らかにて色白く美味なり」とあるそうです。

こうした興味深いお話があり、お弁当の蓋を開けるのが大きな楽しみになりました。松花堂のなかに美しく盛られたお料理の数々は、おからを使った太刀魚の雪花菜（きらら）焼き、更紗玉子、3種の豆腐田楽などなど。香の物は豆腐の味噌漬け。さらにデザートとして、寒天で豆腐を包んだ水菓子「玲瓏（こおり）豆腐」もおいしくいただきました。

ちょっと変った興味深い企画で江戸を味わせていただけることを楽しみに、3回目を期待しております。

【取材】広報部会・岡橋園子

江戸東京博物館友の会 創作講座（2003/3/21）

## 日本の心と美 「江戸手描友禅」

講師 田中 光江さん（佐藤平八工房）

世界の染色工芸のなかでも類のない美を誇る友禅染め。その創作体験講座（第2回）が3月21日（金）、20名の参加者を集めて1階学習室で開かれました。

今回チャレンジした作品は色紙で、図柄はアジサイやショウブ、カタクリの花など8種類。絹地に糊で防染された下絵に筆で染料を挿していきます。

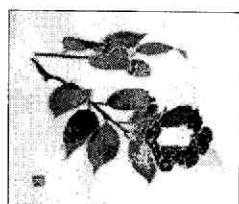
好みの図柄を選んだ参加者は、田中先生や佐藤平八工房の方々の指導を得て、それぞれ自分だけの美しい色彩の世界を広げ、優美な作品を

仕上げました。

「輪郭線の中に色を挿すだけ」と勧められてトライしてみましたが、これが何とも手強く、楽しい時間でした。花や葉ごとに色を選び、気持を筆先に集中させて絹の地に描いていく。修正はききませんから緊張の連続で、完成したときには大きな満足感に満たされました。

講座には一般的の見学者も訪れて、佐藤平八工房や参加者の作品に見入っていました。

【取材】広報部会・大松駿一



【写真】（左）仕上がったツバキ図柄  
（下）親切な指導のもと、一筆一筆に集中して彩色





江戸東京博物館友の会セミナー要録(2003/3/27)

## 明治の女子留学生たちが、 アメリカから学んだこと

講師 久野 明子さん([社]日米協会専務理事)

箱館(函館)戦争の功で開拓使次官に任命された薩摩藩の黒田清隆は、明治4年(1871)1月アメリカへ開拓事業調査に出かけました。そこで目にしたのは、生き生きとした女性でした。帰国後黒田はさっそく、アメリカに留学生を派遣することにしました。

同じ年の11月、岩倉使節団が出発の準備をしていました。特命全権大使の岩倉具視ほか伊藤博文、大久保利通、木戸孝允ら政府要人、男子留学生約50人など総勢100人を超える大使節団でした。

女子留学生を使節団に同行させるため急きよ募集をしましたが、応募者はゼロ。出発が迫った10月に2次募集をしてやっと5人の応募者がありました。

吉益亮子(15歳)、上田貞子(15歳)、山川捨松(12歳)、永井繁子(9歳)、津田梅子(8歳)が開拓使派遣女子留学生です。

この5人には2つの共通点がありました。まず、明治維新の敗者である幕臣の娘たちでした。また、5人の親や兄は海外に行ったり、外国事情に明るかった点です。こうして、横浜から岩倉使節団とともにアメリカへ旅立つのです。

### ●明治初期の女子教育

明治5年(1872)、「学制」が敷かれます。開拓使では、同年10月に開拓使仮学校女学校を開設。明治9年(1876)には札幌農学校が設立され、クラーク博士のもと、新渡戸稻造、内村鑑三など優れた人材を輩出しましたが、女学校は資金不足や女子には北海道での開拓が厳しすぎ廃止されます。

一方、明治6年(1873)のキリスト教禁止令の廃止によって米国の宣教師による女学校の開設が相次ぎました。明治7年、東京・築地に海岸女学校(のち

の青山学院)が開校、以後、各地に女学校が創立され、今日まで女子教育に貢献しているのは対照的です。

### ●米国社会で順応した女子留学生

英語を覚えるため、5人は別々の家庭に預けられます。このうち吉益と上田は体調を崩し、半年で日本に帰ります。

捨松と繁子はそれぞれ牧師さんの家へ、梅子は森有礼の書記官の家に預けられ、短期間に英語を習得し、見事にアメリカ社会に順応してきました。

1878年、高校を出た捨松と繁子は東部の名門女子大ヴァッサー大学に入学。繁子はピアノを専攻しました。

4年後、捨松は卒業生総代のひとりに選ばれ、「イギリスの日本に対する外交政策」という題で見事な演説し、聴衆を感動させました。これは日本女性が政治問題を英語でスピーチした最初でしょう。

梅子は、ワシントンで小学校を修了、女学校で勉学に励みました。明治15年(1882)年11月、捨松と梅子は足掛け11年の留学を終え日本に帰国します。

### ●彼女たちは留学で何を学んだか

捨松は、日本では独身の女性を一人前に認めてくれないため、政府高官と結婚することにより、留学生としての責任を果たそうと決意します。相手は大山巖陸軍卿でした。大山夫人として華族女学校設立準備委員に就任してカリキュラム作りに関わったり、アメリカで取得した看護婦資格を活用して、日本に看護婦養成所を作ることを助言します。

その資金作りのため、日本ではじめて政府高官夫人たちを動員して鹿鳴館で慈善バザーを開催します。当時は、人のために物を売って、その収益金を何かに役立てる、というボランティア精神の発想はなく、世間の注目を浴びま

した。

また、日露戦争の時、アメリカの友人たちから送られた義捐金を使って、働き手をなくした母親に仕事を世話をしたり、幼い子どもたちを預かる託児所を作りました。こうした発想もホストファミリーと過ごした町で学んで身につけたことで、それを実行に移したのでした。

繁子は、留学中に将来の夫となる瓜生外吉(のち海軍大将)と知り合い、捨松たちより1年早く帰国、翌年結婚します。明治13年(1880)、上野に音楽取調所(のち東京音楽学校、東京芸大)ができる、アメリカでピアノを学んだ繁子は、帰国後すぐ音楽教授として迎えられます。

梅子は、結婚ということにこだわらず、女子のための学校を作りたい、という夢を実現させます。帰国後数年間、華族女学校で英語を教えたりしていましたが、もう一度アメリカで学ぶため留学。その間、将来の女子英学塾(のちの津田塾大学)の構想を練ります。そして、明治33年(1900)9月、ついに梅子の女子英学塾が誕生します。

### ●国を愛し、恩返しをする心

3人の生き方から現代にも通用する女性の生き方が見えてきます。

捨松は、社会的な圧力から仕事を持つことをあきらめ結婚、自分の置かれた環境の中でできる役割を果たしました。繁子は、結婚、家庭、仕事を両立させることのできた恵まれた女性でした。梅子は、初志貫徹のために、結婚も考えず、女子教育の向上のために人生を捧げました。

3人は手紙などに自分たちのことを、「We」と書いています。女子留学生として自分たちは普通の日本女性とは違う宿命を負っているのだ、という強い連帯感を感じます。また、お国に対してご恩返しをする責任がある、という純粋な愛国心も感じます。

遠く日本を10年も離れていた3人が、日本人としてのアイデンティティを失わずに、日本人の美德を持ち続けたということを、いまの私たちはもう一度よく考えてみる必要があるのではないでしょうか。[本稿は講師の校閲によりました]

【記録】広報部会・卷渕 彰



# えど友プラザ

友の会会員のページ

## ●最新情報は、ホームページ(えど友Web)で！

友の会の自主運営です。友の会の最新情報、お知らせ、活動予定や会報(えど友)のバックナンバー(Web版)もご覧になれます。会員のHPも紹介します。詳細はHPを参照ください。アドレスは、<http://www.edo-tomo.jp/>

## 桐箪笥に惹かれて 岡橋 園子

一昔前までは、嫁入り道具の一つであった桐箪笥。しかし、最近のマンションブームでは置く場所もなく、住環境にも合わないせいか、作り付け家具や、見かけだけはモダンでも、すぐに壊れそうな家具が多く見られるようになりました。

箪笥は江戸以前は銃器などを入れる引き出しとして使われていました。戦国時代が終わり、平和な日々が続くようになると、男も女もお洒落を楽しむようになり、箪笥は衣装や小物入れに変わってきたのです。

現在では、博物館や伝統工芸展などしか見ることが少くなりつつある本物の桐箪笥の技術者たちのお話が伺いたくなつて林タンス店(東京都品川区二葉2-22-6 電話03-3782-1821)

を訪ねました。

林タンス店は昭和10年(1935)の創業で、社長の林正次さんは2代目です。仕事場に入ると、最近テレビで紹介されたのがきっかけで、注文が入ったばかりという素晴らしい桐箪笥がまず目にありました。落ち着きと品の良さはさすがです。

「本当の桐箪笥は百年以上使えます」と正次さんはおっしゃいます。跡継ぎの次男の英知さんがいらっしゃるせいか、自信を持って仕事をなさっている様子がうかがえます。箪笥や長持ちなどの設計は正次さんで、デパートなどの工芸展はご子息の英知さんがなさっています。

材料となる桐は会津から送られてくる丸太を、一定の厚さに丸鋸で切って乾燥させますが、反りを直すのが一番大変な仕事だそうです。丸太から箪笥を作る板として使えるようになるのに1年はかかるそうです。金属製の釘は1本も使わず、全て古くから木釘材で知られている空木(うつき)です。乾燥後の鉢(かんな)や火を使う工程の主要部

分は全て手作業です。引き手や飾り金具などは業者に注文します。仕上げには漆、砥の粉、夜叉などを用います。

正次さんは伝統をしっかりと守っていきたいと言われましたが、英知さんは「これからのお宅に合わせて、作り付けの家具にも桐箪笥を取り入れてみたい」と新しい考え方を話されました。

海外市場の開拓も意識しておられるようで、「運ぶのに傷がつくのでは」と柔らかい桐が故の問題がネック、とのことです。

私もいつかは桐箪笥や桐机に囲まれて、静かな日溜まりでお茶を飲みながら一日をくつろぎたいという夢を膨らませながら林タンス店を後にしました。

## 都市化で消えた町名 「鈴ヶ森」 小柳 英二郎

## 投稿を大募集! ~テーマは自由、お気軽に~

皆さんからの投稿を大募集しています。テーマは江戸・東京に関連したものならご自由です。身の回りや町の話題、趣味や関心事、疑問質問などを、お気軽にご寄稿ください。



### ◆投稿要領——隨時掲載します。

短文(表題も)を、手紙かハガキ、HPからメールで投稿。イラスト・図版や写真も歓迎。採用分には記念品進呈。応募締切:毎月末日。会員番号、〒住所、氏名、年齢、電話番号を明記。友の会事務局「投稿」係あて。

鈴ヶ森というと江戸時代の処刑場を思い出します。小塚原(現荒川区)と並ぶ、強盗、殺人、放火犯などの重罪人の処刑場で、慶安4年(1651)に開設されたものです。明治4年(1871)に廃止されるまでに、歌舞伎や講談でおなじみの丸橋忠弥、白井権八、天一坊、八百屋お七などの人物が、ここで処刑されたのです。

鈴ヶ森は東海道に沿って、海浜に面した風光明媚なところでした。しかしこの辺も近代化が進み、海浜は埋め立てられてビルも立ち並び、京浜急行

# 江戸博クリップ

「石曳図」という資料をご存じでしょうか。複製資料で常設展示室6階に年に数カ月ほど展示される。江戸城の普請に関わって、石材を山から切り出し、海岸まで引き出し、検品後に船に載せ、江戸に搬送される。その経過を描いた図である。

先日この資料の景観を見るために、梅の香る伊豆半島を歩いてきた。面白かった、実に。切り出し途中の矢

電鉄の鈴ヶ森駅は閉鎖廃止となり、昔の「東京府荏原郡大井村鈴ヶ森」の地名は、どこを探しても見当りません。それどころか郵便配達には都合の良い、品川区南大井2丁目5番地6号となってしまったので、われわれは鈴ヶ森処刑場のイメージを持つことは出来ないです。

古い地名は江戸の歴史には不可欠のものであり、それが新しい町名になり、○丁目○番地○号と変えられると、全くお手上げです。日本橋、高輪などは残っていくでしょうが、郊外の古い地名も、出来ればそのまま使っていきませんと、江戸の歴史を残す上で不都合かと思います。

鈴ヶ森刑場跡を、南大井の中から探すのは容易なことではありません。地名をそのまま残しておけば、江戸の歴史はもっと身近なものとなるでしょう。

## 江戸東京〈もの〉がたり展 野坂 紘子

大江戸八百八町展を見にいったと

穴のある岩、符号と呼ばれるマークを刻んだ石、搬出直前の石材製品、果ては大名の名前まで刻んだ巨岩が、山中に散在した。石切丁場跡の様相

のもあった。まさに「石曳図」の世界が現地に残されていた。(この世界は、近く、スライドにて紹介する予定です)



## 石曳図の伊豆を歩く

学芸員 齋藤慎一

は当時の雰囲気を実感するのに十分だった。石材は丁場跡にとどまらない。製品化された石材は海に向かつて運ばれるが、途中で放棄されたも

きは、世が世なら何百石取りの方々がとても張り切っていた男型展示会だった気がしたのだけど、こちらは女性受けしそうだな、と思った。

内覧会でいち早く見せていただけたびに、このVIP待遇に、友の会に入った幸福を噛みしめるのだけれど、今回もじっくりたっぷり数多くの品々を堪能した。50代の私だと、「わっ懐かしい、伯母さんの家にあったわ」とか「田舎のうちで使ってたなあ」という品々が満載。しみじみ癒しの空間になっている。

1つひとつの品々に作られた時代の手の跡、人の心、使っていらっしゃった方々の思いがこもっている気がする。チリトリだのホウキだの、こういうガラクタ様の物のほうが重要文化財よりかえつて心が揺さぶられるのが不思議な気がする。

洗濯機——伯母が家の外に置いて洗濯していたな、まだ若くてきれいだったな。もう40代のいとこが使っていた水色のベビーバス、あれはどうしたろう。あら、田舎の家の水瓶と同じだわ、汲み置きの井戸水が冷たく甘くおいしかったな。せっせと水汲みしていた伯母を思い出す。

ホウキ——私の田舎ではほうき草の干したのを使っていたつけ。頑丈な水

屋があったけれど、どうなっているかな。木製の流し台、これはまんまと作りだなとか、見ていていちいち心に響いてきて昔々の時間に私を戻していく。あのころの日の光を追体験するようだ。

物にもDNAがあるのかもしれない。人ごとに多くの情報を秘めている。それに対しても子どもの時間というの、なんであんなにゴールデンで豊かだったんだろう。バイキング様に何でもあり、よりどり見どりで、あまりの品の多さに満腹しながら(もの)がたりを開く。でも、多いってことも良いことね。とにかく見た気がする。

会場入口の向島の桜風景——私の伯父は千住で写真屋をやっていて、たくさんの白黒写真に赤い色の鉛筆で手彩色していた、あのピンク。

まあ美しい櫛、笄(こうがい)、なあんすごい細工。大好きな江戸の女の魅力的な縞帳、こんなのを着てみたい。女性必見、江戸東京の物たちの話を聞きにこようよ、という、そんな気持になる展覧会がありました。

友の会で1人千円くらい寄付をして、友の会の名前でお小皿1枚くらい買ってもらうというはどうでしょう。人の作る物には価値がある。そんな気にもなる展覧会でもありました。

江戸東京博物館ミュージアムショップ **名店めぐり(5)**

## 銀座で摺る「渡邊木版美術画舗」

ミュージアムショップで販売されている川瀬巴水の「馬込の月」や笠松紫浪の「浅草観音」などの木版画はどのように摺り上げられるのでしょうか。

先ごろの「大江戸八百八町展」で評判だった「名所江戸百景」復刻浮世絵を制作された東京伝統木版画工芸協会に所属する(株)渡邊木版美術画舗さんを東京・銀座の本社にお訪ねして、3代目社長の渡邊章一郎さんにお話をいただきました。

渡邊木版さんは、オリジナルと複刻版の浮世絵や現代版画の販売をなさっています。現在、摺師の方は2名(堀川昭三郎さんと渡辺英次さん[写真])で、渡辺さんの雲母摺り(きらぎり)を拝見させていただきました。雲母摺りは、6

角形状の鉱物粉の雲母(うんも)を使って、銀の輝き効果を出す技法。写楽や歌麿の浮世絵で注目されました。

「撒き雲母」の手法は、板に湿気を与え、溶いた膠(にかわ)を版木に置いて摺り取り、ふるいで雲母を撒きます。その後、不要の雲母を刷毛で払ってから摺り上げます。雲母を撒く前と後では絵の感じがまったく変わってきます。

創業は明治39年(1906)。お祖父様の庄三郎さんが最初に店を構えたのは京橋です。浮世絵専門の画商として、オリジナルの浮世絵と浮世絵復刻版を国内外に販売を始めたのです。銀座にお店を移したのは関東大震災後の大正14年(1925)。庄三郎さんは大正の中頃に「新版画運動」を興した方で



優美を極める雲母摺り(きらぎり)  
中央区銀座8-6-19 Tel. 03-3571-4684

す。当時の画家に新しい時代の浮世絵を、という呼びかけで作品を発表しました。これらは海外で評価され、その後、国内でも人気が高まっています。

今、こうした伝統の職人技を伝える手仕事は跡継ぎという大きな課題を抱えています。しかし、素晴らしい仕事です。必ず後継者が現れて次代へ続いていることでしょう。

【取材】広報部会・岡橋園子



### ～ミュージアム ショップ～ **新装オープンしました。**

3月4日から、ミュージアムショップが1階の正

面玄関ロビーに移転してリニューアル・オープンしました。チケット売り場に隣接した、これまでより分かりやすい場所で、広く、開放的な明るいショップに生まれ変わりました。

### 会員優待のお知らせ

【企画展】江戸開府400年 開館10周年記念

### 武蔵 MUSASHI 武人画家と剣豪の世界 展 ～宮本武蔵の生涯と剣豪の時代の資料紹介～

会期 4月11日(金)～5月25日(日)

月曜休館(4/28, 5/5は開館、5/6は休館)

・図録 定価2,200円(税込み)、会員10%割引1,980円

\*企画展物販コーナーでのみ販売。会員証提示

\*ミュージアムショップでは割引になりません。

会員：一般450円、65歳以上220円、大専門生360円  
同行者：一般720円、65歳以上360円、大専門生570円

【次回予告】会期 6月3日(火)～7月9日(水)  
「発掘された日本列島2003 ～新発見考古速報～」展

### 活動に参加しよう 各部会員を募集！

事業部会：事業の企画・運営、広報部会：(えど友)の編集・PR活動、総務部会：各種案内の発送・受付

ハガキに、希望部会名、会員番号、〒住所、氏名、電話、応募事由、を記載して、事務局までご応募ください。



次号は7月1日発行予定です。  
<http://www.edo-tomo.jp/>

江戸東京博物館友の会  
会報(えど友) 第13号

発行日 平成15年(2003)5月1日

発行 江戸東京博物館友の会事務局©

130-0015 東京都墨田区横網1-4-1

Tel. 03-3626-9910

編集・制作 友の会広報部会

発行・編集人／佐山彪(事務局長) 編集主幹／大松駿一  
編集／岡橋園子、菅沼和男、佐藤幸彦、貝森武夫、  
小柳英二郎、瀧口逸策 レイアウト・版下制作／巻渕彰